

1 輸血卒後教育を受ける立場から

2  
3 ○松岡瞳（船橋市立医療センター）

4  
5 【はじめに】輸血検査は、検査過誤が人命に関わる  
6 恐れがあることから、新人技師は不安が多く苦手意  
7 識が強い。これを克服するためには十分な教育と経  
8 験が必要であり、いかにスキルアップを図るかが重  
9 要となる。今回は輸血検査の教育を受ける立場から  
10 現状と課題について述べる。

11 【現状】臨床検査技師を育成する教育施設の輸血検  
12 査に関するカリキュラムは、各施設や臨地実習先の  
13 病院の指導内容により大きく異なり、学生が十分な  
14 知識と技術を得られないまま就職する者も少なく  
15 ない。一方、就職後の医療現場では、短い時間で行  
16 われる研修を受け業務に就かざるを得ないのが現状  
17 である。特に輸血検査業務は、検査過誤が大きな医療  
18 事故につながる可能性があることから、新人技師は、  
19 常に不安を感じている。少しでも不安を解消するた  
20 めに、輸血検査の参考書を活用し知識の習得に勉め  
21 るが、実技に関しての細かい内容の記載は少ない。  
22 よって実技に関しては院内の輸血検査マニュアルを  
23 基に先輩技師による指導や干臨技などで行われてい  
24 る実技講習会等に参加して技術を身につけることに  
25 なる。しかし現実には、院内・院外ともに指導を受  
26 けられる時間は限られており、その不安は解消され  
27 ない。

28 【課題】新人技師が輸血業務に対する不安を解消す  
29 るには、輸血検査の経験を積み重ね、正確な知識と  
30 技術を身につけることが必要であることは言うまで  
31 も無い。しかし輸血検査業務は、安全且つ適正な輸  
32 血医療を推進するため業務が複雑化し、知識と技術  
33 もより高度なものが求められ、スピードと正確性が  
34 常に追求される。新人技師が、この要求に応えるた  
35 めには、院内・院外の勉強会・研修会等に積極的に  
36 参加し自主的にスキルアップを図るほかに、組織的  
37 且つ継続的に十分な時間を費やした教育を受ける場  
38 を必要とする。

39 047-438-3321